

生活単元学習指導案

1. 単元名 「こうえんへいこう」

2. 指導観

○ こんな子どもたちだから

障がいの特性や発達段階は様々で、学習経験も違う子どもたちである。子どもたちは、これまでに学校の固定遊具で遊ぶことを通して、遊具の使い方や友だちと交代して仲良く遊ぶなどルールを学んできている。また「校区探検をしよう」「□□センターへ行こう」等の学習で校外に出て、日常とは違う生活経験をすることで、社会生活上のルールやマナーを学んできている。そして、楽しかった出来事を人に伝えたり、日記や絵で表現したりしてきている。しかし、まだ社会生活の経験があまり多くないために、社会生活上のルールやマナーを十分に身につけていないため、社会生活の中の活動に支障を来すことがある。また授業では、自分の思いを適切に表現したり、相手に伝えたりすることが不十分である。

○ このような学習で

本題材は、子どもたちが公園へ出かけ、教師や友だちと一緒に遊具や広場で楽しく活動しながら、集団のルールや公共施設使用時のマナーを学び、楽しかった出来事を日記にまとめていくものである。

子どもたちにとって、公園は身近で楽しく活動できる場であり、また、日常的に利用し集う場所であるとともに、社会生活上のルールやマナーを学べる場でもある。生活の場がなかなか広がらず、外で活動する経験が少ない子どもたちにとって、公園で友だちと遊ぶ活動は、遊びが広がると共に、楽しく意欲的に活動する姿が期待できる。さらに、子どもたちは、公園を利用する人のことを考えてルールやマナーを守って遊ぶことの大切さを学べると考えられる。公園にある遊具の名称や遊び方については、子どもたちがよく知っていることばで表現しやすいこともあり、楽しく遊んだことを振り返って人に伝えたり、また遊びたいという思いを高めたりすることが期待できる。

○ このような支援で

指導にあたっては、まず、公園でルールやマナーを守りながら友だちと一緒に楽しく遊べるように、公園での遊び方について話し合う。その際、公園にある遊具や広場でできる遊びについて、写真や具体物を使って子ども達に知らせる。公園でのマナーや遊ぶときのルールは、具体的に書いたり話したりして伝える。このようにして、子どもたちに、公園での遊び方に見通しや意欲をもたせるようにする。

そして、実際に公園に行ったときは、一人一人がだれとなにをして遊んでいるかを把握する。遊べないときは、教師と一緒に遊んだり、声かけたりしながら友だちと遊べるように促して楽しく活動できるようにする。この時、子どもの好きな遊びや友だち関係に留意し、安全で仲良く遊べるように支援する。

公園で遊んだことを日記にまとめるときは、国語科の「日記を書こう」で学習したことを生かし、日記の書き方について再度手順を示しながら主体的に活動できるようにしていく。そのために、一人一人の活動の様子を撮影した公園でのビデオや写真を利用する。このようにして、一人一人に合った内容や方法で日記を書かせ、その後、友だちと日記を発表し合う場を設定して楽しく表現させていくようにする。

3. 目標

- 公園へ行き、遊具や広場で教師や友だちと一緒に楽しく遊ぶことができる。
- 集団のルールや公園のマナーを守り、安全に気をつけて遊ぶことができる。
- 公園で遊んだことを振り返り、日記に書いて発表し合うことができる。

4. 学習計画（計4時間）

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
<p>1. 公園での遊び方について話し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公園にある遊具や広場でできる遊びについて知る。 ○ 公園でのマナーやルールについて知る。 <p>2. 公園へ行く。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公園の遊具や広場で遊ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>やくそくをまもって、たのしくあそぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けがをしないように遊ぶ。 ・ 順番を守って遊ぶ。 ・ 友だちと一緒に仲良く遊ぶ。 ・ まわりの人のことを考えて遊ぶ。 </div> <p>2. 公園での思い出を日記に書く。本時①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ビデオや写真を見ながら、公園での活動を振り返って日記を書く。 ○ 日記を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公園の遊具や広場でできる遊びを写真や具体物を使って、子どもたちに話し、意欲をもたせる。 ○ 公園でのマナーや遊ぶときのルールを子どもたちに質問しながらホワイトボードに箇条書きに記述し、公園での安全な遊び方について知らせる。 ○ 公園では、一人一人の遊びの様子を把握する。遊べていない子どもには、教師と一緒に遊んだり、他の子どもと一緒に遊べるように促したりする。 ○ 危険な遊びをしていないか確認し、安全に気をつける。 ○ 子どもの様子をビデオや写真に記録する。 ○ ビデオや写真を手がかりに公園での活動を思い出させ、日記に書くという見通しや意欲をもたせる。 ○ 国語科で既習した日記の書き方を生かし、同じ教材・教具を使って日記を書かせていく。 ○ 個に応じた支援を工夫する。

本時指導案（3／3）

公開授業 I

1. 本時の目標

- 公園で遊んだ写真を手がかりに「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」「きもち・おもったこと」を思い出し、ことばで表現しながら日記を書くことができる。
- 聞く人の方を見て、日記を手がかりに公園での出来事を発表することができる。

個別の目標

A 児	<ul style="list-style-type: none">・ 写真を見ながら公園での出来事を思い出し、友だちの名前や遊んだことを事物名称語や動作語をつなげて話すことができる。また、その時の気持ちを自分のことばで表現できる。・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の文のつくりに気づき、写真や文字カードをならべて日記に表すことができる。・ 自分の日記を見ながら、ことばをつなげて友だちに伝えることができる。
B 児 C 児	<ul style="list-style-type: none">・ 写真を見ながら公園での出来事を思い出し、友だちの名前や遊んだことを事物名称語や動作語をつなげて話すことができる。また、その時の気持ちを自分のことばで表現できる。・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の文のつくりに気づき、写真や文字カードをならべたり事物名称語や動作語を書いたりして日記に表すことができる。また、助詞の使い方に気付くことができる。・ 自分の日記を見ながら、ことばをつなげて、自分から大きな声で友だちに伝えようとするすることができる。
D 児	<ul style="list-style-type: none">・ 写真を見ながら公園での出来事を思い出し、友だちの名前や遊んだことを事物名称語や動作語をつなげて話すことができる。また、その時の気持ちを自分のことばで表現できる。・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の文のつくりが分かり、助詞の使い方に気を付けながら日記を書くことができる。・ 自分の日記を見ながら、文章ではっきりと友だちに伝えることができる。
E 児 F 児 G 児	<ul style="list-style-type: none">・ 写真を見ながら公園での出来事を思い出し、遊んだことやその時の気持ち、思ったことを詳しく自分のことばで表現できる。・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の文のつくりが分かり、助詞の使い方に気を付けながら日記を書くことができる。また、その時の気持ちや思ったことを文章化して書くことができる。・ 自分の日記を見ながら、文章ではっきりと友だちに伝えることができる。

2. 本時の支援・指導にあたって

本時の仮説

国語科で学習した「日記の書き方・発表の仕方」を生かすことで、発表の内容が整理でき、聞く人に分かりやすい発表ができるであろう。

子どもたちは、前時に公園へ行き、意欲的に活動して楽しい思い出ができた。そこで本時は、公園での楽しかった出来事を思い出し、遊んだことや見たことをことばで表現しながら日記を書かせ発表させたい。

本時指導にあたっては、まず、公園へ行った時のビデオを見てその時の活動を想起させる。その後、写真を提示し日記に表す出来事を具体的に示しながら、日記の書き方の手順や方法を知らせて本時の活動に見通しをもたせる。その際「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の視点で文章化しやすいように、手本を工夫する。

次に、子どもたちの実態に合ったプリントを準備し一人一人に合った支援を行いながら、それぞれが公園での出来事を思い出して意欲的に日記を書くことができるように促していく。

最後に、一人ずつ前に出て日記を発表する場を設定し、日記を書き上げた達成感や人に伝えたいという気持ちをもたせるようにする。発表にあたっては、発表の仕方や聞く態度にも気をつけさせながら発表できるようにする。このようにして、伝え合うことの大切さや喜びが感じられるようにしていきたい。

3. 準備

- (教師) ビデオ、写真（ホワイトボード用）、日記の用紙（ホワイトボード用）、単語カード（ホワイトボード用）、助詞カード（ホワイトボード用）
(児童) ビデオ、写真（個人用）、日記の用紙（個人用）、単語カード（個人用）

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
<p>1. 公園へ行ったことを思い出し、本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) ビデオを見る。</p> <p>(2) 本時の活動について知る。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> こうえんであそんだことをにつきにかこう。 </div> <p>2. 自分の日記を書く。</p> <p>(1) 写真を見ながら、公園での出来事を振り返り日記を書く。</p> <p>3. 日記を発表し合う。</p> <p>(1) できあがった日記を発表し合う。</p>	<p>○ 公園に行った時のビデオを見せて、その時の様子を思い出させる。</p> <p>○ ホワイトボードで教師が日記の書き方の手本を示し手順や方法を知らせて見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」「きもち・おもったこと」を一つ一つ子どもたちに伝えながらホワイトボードに写真や文字カードを貼っていく。 <p>○ それぞれ子どもの実態に合った内容や教材支援を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日記の用紙は、子どもの実態に合ったものを二種類準備する。 ・ 文字を書くことをまだ習得できていない子どもや視覚の手がかりが必要な子どもには写真や文字カードを準備し、書かなくても日記ができるようにする。 ・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の観点で子どもたちに問いかけながらことばを引き出し、日記に書き表していけるようにする。 ・ 「きもち・おもったこと」を自分なりのことばで表現できるようにそれぞれに合った問いかけをする。うまく表現できない子どもには、教師がことばを具体的に示したり、子ども達のことばをうまくつなげたりしながら文章化していき、気持ちの表し方を身につけさせる。 ・ 発語が乏しく発音がはっきりしないC児には、教師が正しい発音で発語してみせ、その後一緒にC児に一音一音はっきりと発語させて日記に書かせていく。 <p>○ 発表の仕方や聞く態度について、どうすることがいいのか、どういうところに気を付けないといけないうのかを具体的に示しながら子どもたちに指導する。また、励ましたり賞賛したりして発表する意欲を高める。</p> <p>○ 発語が不明瞭なC児の発表時は、教師が復唱し、聞く人に分かりやすく伝える。</p>

9. 板書計画

めあて

こうえんであそんだことをにつきにかこう

本時指導案（3／3）

公開授業Ⅱ

1. 本時の目標

- 公園で遊んだ写真を手がかりに「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」「きもち・おもったこと」を思い出し、ことばで表現しながら日記を書くことができる。
 - 聞く人の方を見て、日記を手がかりに公園での出来事を発表することができる。
- 個別の目標

A 児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を見ながら公園での出来事を思い出し、友だちの名前や遊んだことを名前カードや写真を指さしたり、ジェスチャーをしたりして伝えることができる。また、教師の質問に答えることでその時の気持ちを表すことができる。 ・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」という事について、教師の質問に写真やカレンダーを指さしたり、ジェスチャーをしたりして答えていきながら、単語カードをならべたり、文字をなぞったりして日記に表すことができる。 ・ 自分の日記を見ながら、ことばやジェスチャーで友だちに伝えることができる。
B 児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を見ながら公園での出来事を思い出し、友だちの名前や遊んだことを事物名称語や動作語をつなげて話すことができる。また、その時の気持ちを自分のことばで表現できる。 ・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の文のつくりに気づき、写真や文字カードをならべたり、文字をなぞったりして日記に表すことができる。 ・ 自分の日記を見ながら、ことばをつなげて友だちに伝えることができる。
C 児 D 児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を見ながら公園での出来事を思い出し、遊んだことやその時の気持ち、思ったことを自分のことばで表現できる。 ・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の文のつくりが分かり、助詞の使い方に気を付けながら日記を書くことができる。また、その時の気持ちや思ったことを書くことができる。 ・ 自分の日記を見ながら、はっきりと友だちに伝えることができる。
E 児 F 児 G 児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を見ながら公園での出来事を思い出し、遊んだことやその時の気持ち、思ったことを詳しく自分のことばで表現できる。 ・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の文のつくりが分かり、助詞の使い方に気を付けながら日記を書くことができる。また、その時の気持ちや思ったことを文章化して書くことができる。 ・ 自分の日記を見ながら、文章ではっきりと友だちに伝えることができる。

2. 本時の支援・指導にあたって

— 本時の仮説

国語科で学習した「日記の書き方・発表の仕方」を生かすことで、発表する内容が整理でき、聞く人に分かりやすい発表ができるであろう。

子どもたちは、前時に公園へ行き、意欲的に活動して楽しい思い出ができた。そこで本時は、公園での楽しかった出来事を思い出し、遊んだことや見たことをことばで表現しながら日記を書かせ発表させたい。

本時指導にあたっては、まず、公園へ行った時のビデオを見てその時の活動を想起させる。その後、写真を提示し日記に表す出来事を具体的に示しながら、日記の書き方の手順や方法を知らせて本時の活動に見通しをもたせる。その際「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の視点で文章化しやすいように、手本を工夫する。

次に、子どもたちの実態に合ったプリントを準備し一人一人に合った支援を行いながら、それぞれが公園での出来事を思い出して意欲的に日記を書くことができるように促していく。

最後に、一人ずつ前に出て日記を発表する場を設定し、日記を書き上げた達成感や人に伝えたいという気持ちをもたせるようにする。発表にあたっては、発表の仕方や聞く態度にも気を付けさせながら発表できるようにする。このようにして、伝え合うことの大切さや喜びが感じられるようにしていきたい。

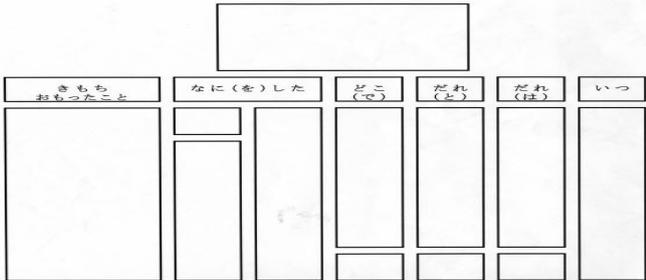
3. 準備

- (教師) ビデオ、写真（ホワイトボード用）、日記の用紙（ホワイトボード用）、単語カード（ホワイトボード用）、助詞カード（ホワイトボード用）
- (児童) ビデオ、写真（個人用）、日記の用紙（個人用）、単語カード（個人用）

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
<p>1. 公園へ行ったことを思い出し、本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) ビデオを見る。</p> <p>(2) 本時の活動について知る。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>こうえんであそんだことをにつきにかこう。</p> </div> <p>2. 自分の日記を書く。</p> <p>(1) 写真を見ながら、公園での出来事を振り返り日記を書く。</p> <p>3. 日記を発表し合う。</p> <p>(1) できあがった日記を発表し合う。</p>	<p>○ 公園に行った時のビデオを見せて、その時の様子を思い出させる。</p> <p>○ ホワイトボードで教師が日記の書き方の手本を示し手順や方法を知らせて見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」「きもち・おもったこと」を一つ一つ子どもたちに伝えながらホワイトボードに写真や文字カードを貼っていく。 <p>○ それぞれ子どもの実態に合った内容や教材支援を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日記の用紙は、子どもの実態に合ったものを二種類準備する。 ・ 文字を書くことをまだ習得できていない子どもや視覚の手がかりが必要な子どもには写真や文字カードを準備し、書かなくても日記ができるようにする。 ・ 「いつ」「だれは」「だれと」「どこで」「なにをした」の観点で子どもたちに問いかけながらことばを引き出し、日記に書き表していけるようにする。 ・ 「きもち・おもったこと」を自分なりのことばで表現できるようにそれぞれに合った問いかけをする。うまく表現できない子どもには、教師がことばを具体的に示したり、子ども達のことばをうまくつなげたりしながら文章化していき、気持ちの表し方を身につけさせる。 ・ 発語が乏しく単語や二語文しか話せないA児は、写真や単語カードを指さしたり、ジェスチャーで答えたりする事で言いたいことを伝えさせるようにする。 <p>○ 発表の仕方や聞く態度について、どうすることがいいのか、どういうところに気を付けないといけないかを具体的に示しながら子どもたちに指導する。また、励ましたり賞賛したりして発表する意欲を高める。</p> <p>○ 発語が不明瞭なC児の発表時は、教師が復唱し、聞く人に分かりやすく伝える。</p>

9. 板書計画



めあて

こうえんであそんだことをにつきにかこう